



飯田高校だより

第 46 号

平成 31 年 3 月 22 日

長野県飯田高等学校

学校評価委員会・教務係

今年度の学校自己評価のまとめと 3 学期の学校の様子をお知らせします。この学校だよりに掲載してある学校評価表をご覧ください、本校の教育について忌憚のないご意見をお寄せください。

学校情報は、ホームページにも随時掲載いたしますのでご利用ください。http://www.naganoc.ed.jp/iida-hs/

第 71 回卒業証書授与式

3 月 2 日(土)、大体育館にて、第 71 回卒業証書授与式が行われました。普通科・理数科あわせて 275 名が、本校における平成最後の卒業生として、旅立ちの日を迎えました。

送辞を読んだ在校生代表の生徒自治会副会長・遠藤瑞大さん(2F)は、高松祭をはじめとした生徒自治会活動や班活動に真摯に取り組んだ 3 年生に敬意を表しました。加えて、平成の時代が数多く経験した「想定外」と、坂本龍馬のことばとを引き合いに出し、想定外をも想定する洞察力、真実を見極める見識とあふれるエネルギーを持って、新時代を切り拓く先駆けになってほしい、と先輩たちに力強いエールを送りました。



答辞を読んだ卒業生代表の前生徒自治会長・矢澤世成さん(3A)は、自らの 3 年間、そして、クラス・生徒会での取り組みを振り返りました。特に、高松祭音楽会の合唱練習でのクラス内の衝突を乗り越えて金賞を獲得したこと、今年度の高松祭を予算激減というハンディを乗り越えて中身の充実したものにできたことを取り上げ、出会いや人との関わり方の大切さ、失敗を恐れず挑戦することの尊さを、後輩たちに力強く訴えました。

また、第 71 回卒業生からは、「テント 3 張」が卒業記念品として贈呈されました。

今年度から、卒業生全員がスーツで卒業式に臨むことになりました。穏やかな弥生晴れの日、黒や紺のスーツを身にまとった卒業生の皆さんは、清々しくもあり、凛々しくもあり、すでに社会へ大きく一歩を踏み出した成人の如く、とても頼もしい姿で、通い慣れた学び舎を巣立っていきました。

～ 学校生活のひとコマ ① ～



百人一首大会 (1 月 25 日)



ドミニカ共和国特命全権大使・牧内博幸氏
(飯田市出身)による教養講話 (1 月 24 日)



同窓会講演会 岩崎廣和氏(高 22 回)
「未来を切り拓く情熱」(3 月 15 日)

飯田高校を会場に大学入試センター試験

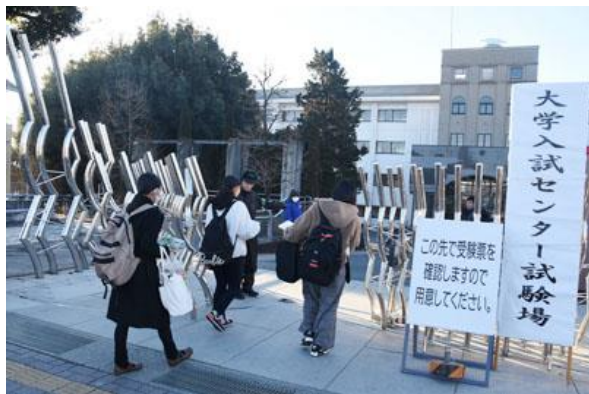


写真 「南信州新聞」平成31年1月20日掲載 より

1月19日(土)・20日(日)に、飯田高校を会場として、大学入試センター試験が実施されました。本校を会場とするのは、今年度で3年目。飯田高校会場の志願者は588人にのぼり、本校3年生は269人が受験しました。

1日目は、凍てつく寒さながら好天にめぐまれました。3年生は、慣れた場所での受験とはいえ、引き締まった緊張の面持ちで入場し、地歴公民・国語・外国語に臨みました。2日目はぐずついた天候でしたが、残りの理科・数学に力を振り絞りました。

全国平均(5教科)点は、文系・理系とも昨年より10点以上上回り、やや易化したといえますが、本校の3年生も、5教科受験者の平均点は文理ともに全国平均を15点以上上回る好成績で、これまでの学習の成果を大いに発揮してくれました。

3年生はその後、2月の私立大学の受験、2月25日の国公立前期試験、3月12日の国公立後期試験などに臨み、続々と吉報が届いています。北は北海道から南は沖縄まで、全国の大学に散らばって行きますが、飯田高校生としての誇りを持って、胸を張って自分の夢の実現に向けて歩いてほしいものです。

2年理数科「課題研究発表会」

理数科にとっての最重要イベントである「課題研究発表会」が、1月31日(木)に、本校南館で実施されました。

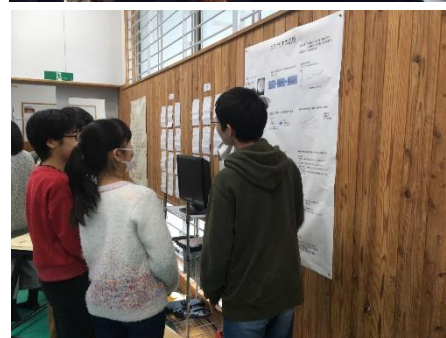
2年生になってから約1年間の研究の成果を、1年理数科生徒や一般の方など多くの聴衆を前にして、班ごとに、パワーポイントを使ってプレゼン発表したり(写真上)、ポスターセッションで説明したりしました(写真下)。

選んだ1つのテーマをこれほど長期にわたり専門的に研究することは初めてであり、かつ、仮説と実験結果がなかなか合わなかったりと、紆余曲折もあったかと思います。それらを克服して、発表にまで漕ぎつけたこの経験は、大学での研究などにもきっと活かされると思います。

また、現在の高校教育のトレンドであり、必須化されていく「探究的な学び」の成功例として、今後も、理数科のハイレベルな「課題研究」を期待したいものです。

以下は、研究タイトルです。

化学A班	食品添加物の性質について
化学B班	ソラニンの抽出と検出
物理A班	ミルクの滴下条件によるミルククラウン形状の変化について
物理B班	クラドニ図形～条件の違いによる図形の変化～
生物A班	プラナリアの記憶
生物B班	ゴキブリの生態
地学班	紫外線の研究
数学班	ブラックジャックの必勝法



生物A班の発表「ゴキブリの生態」は、3月3日に信州大学理学部で開催された「信州サイエンスミーティング」に参加し、見事、“最優秀発表賞”を受賞しました。

総合研究大学院大学の大学院生との交流

日本初の国立大学院大学にして世界最高水準の研究を誇る総合研究大学院大学(神奈川県)と飯田市と飯田高校の三者が連携して実施されたイベント「未知への挑戦 ～若手が語る最先端研究～」が、1月28日(月)と29日(火)の2日間にわたり、飯田高校で行われました。

今回来校した大学院生6名は、同大学に所属しながら、JAXAや国立天文台など国立の研究機関にも配属されている、エリート研究者の卵。

1日目は、1年理数科との交流会が行われ、生徒が「課題研究」のテーマを決めるにあたり、大学院生から貴重なアドバイスをもらいました(写真上)。学生が相手のため話しやすいこともあり、活発なやりとりが展開し、熱を帯びた非常に有意義な交流会となりました。

2日目は、大学院生の授業が行われました。大学院生6名と本校1・2年生の希望生徒約80名が3グループに分かれ、講義や実験を通して最先端研究の一端に触れました(写真下)。テーマは「『“つくる”を観る』と『“つくる”を創る』～星のでき方とタンパク質の作り方～」、「宇宙初期に生まれた2つの“H”～Hydrogen & Higgs～」、「工学が目指す“宇宙”、理学で追求する“宇宙”」。

(感想)「今、学校で習っていることが、その先を理解するための基礎であることを実感できた。」 「お二人の表情がとてもイキイキしていて、本当にその分野・研究が好きなんだと思いました。見ているこちらまで引き込まれ、楽しかったです。」 「宇宙に対する色んなアプローチが聞けてとても楽しかった。もともと工学に進みたいと考えていたけれど、理学も楽しそうだった。」 「身近な話題から研究内容を知ることができたので、分かりやすく、興味を持ちやすかった。研究がとても楽しく夢中になれるものであることが伝わった。」



～ 学校生活のひとコマ ② ～

今年度の「飯田高校だより」に掲載されなかった、学校生活のひとコマを、取り上げました。飯田高校では年間を通して色々な取り組みが行われております。



ガーナの高校生が来校し、1年生と交流しました。空手班の演武を見るガーナの高校生。(8月30日)



図書館で行われたビブリオバトル。熱い“書評合戦”が繰り広げられる。(10月26日)



本館の玄関ロビーに展示された書道コンテスト(2月)

1900(明治33)年に「独立」した旧制飯田中学校・飯田高校は、来月より“120年目”に突入します。来たる年度も、何とぞよろしくお願ひいたします。